

「今カノいかがですか？」

— 2 稿 —

2026/6/30

米俵

〈人物表〉

村瀬 亮介 (28) 会社員

白井 ナオ (38) 関係相談所の職員・女性

岸本 このみ (24) 村瀬の彼女

相沢 亨 (28) 村瀬の友人

1. 居酒屋前・道(夜)

数人の酔っ払いがたむろっている。

村瀬亮介(28)と相沢亨(28)、向かい合って立ち話。

相沢 「じゃ、考えてみるよ」

と、亮介の肩に手を置く。

亮介 「ああ……」

亮介、名刺を見つめる。

(名刺) 関係整理相談所

相沢 「俺はもうやらないから。安心しろ」と、手を振って去る。

亮介 「どっちの意味だよ」

と笑う。

亮介のスマホに通知。

亮介、確認するがすぐにしまう。

ため息。

岸本このみ(24)が後ろから声をかける。

亮介、驚く。

このみ 「迎えに来ちゃった」

亮介 「……まじかよ」

このみ 「ダメだった？」

亮介 「そういうんじゃない」

このみ 「……なんか、怒ってる？」

亮介 「怒ってない」

このみ 「最近、ちよっと避けてる？」

亮介 「忙しいだけ」

このみ 「そっか。会えて嬉しい」

亮介 「……」

このみ 「ハンバーグ作って置いたよ」

亮介 「今日はもう食べれないって」

このみ 「明日の分だよ」

亮介、何も言えない。

歩いていく2人の後ろ姿。

2. 関係整理相談所・扉前（昼）

雑居ビルの一室。ドアには「関係整理相談所」と書かれた小さなプレート。

亮介、少し迷ってから、ドアを開ける。

3. 関係整理相談所・室内（昼）

亮介、きよろきよろと室内を見回す。

清潔な室内。白い壁。観葉植物。小さな加湿器。

臼井ナオ（38）が満面の笑みで亮介に近づく。

ナオ 「ご予約の村瀬亮介様ですね」

亮介 「あ、はい」

ナオ 「こちらへどうぞ」

と、奥の相談スペースへ案内する。

ナオ 「本日は、パートナー様の出品登録でお間違いないでしょうか？」

亮介 「まあ……そうですね。なんか、でも出品って嫌ですね」

ナオ 「伝わりやすいので」

亮介 「安全なんですか？」

ナオ 「はい。購入者の方は厳しい審査を通過しております」

亮介 「出品者は？」

ナオ 「お名前とお電話番号、あとは登録料のみです」

亮介 「いくらですか？」

ナオ、契約書を見せながら、

ナオ 「登録料、出品料、合わせて11万円となっております」

亮介 「たかっ……あ、すみません」

ナオ 「お気になさらないで下さい」

ナオ、契約書の太字になっている部分を指して、

ナオ 「ただし、マッチングが成立した場合は協力金として8万円がキャッシュバックされます」

亮介 「えっ、実質3万？」

亮介、ぼそっと、

亮介 「揉めて修羅場になるよりいいか……」

ナオ 「はい。皆さま、そのように仰られます」

と、満面の笑み。

亮介 「でもなー、マッチングしますかね？」
ナオ 「体験出品されますか？」
亮介 「そんなこと出来るんですか？」
ナオ 「こちら一読いただき、サインをお願いいたします」
亮介 「これ、なんのサイン？」
ナオ 「体験にあたっての登録ですね」
亮介、サツと読んでサインする。
ナオ、パソコンを開いて、
ナオ 「パートナー様のお名前、ご年齢から宜しいですか？」
亮介 「岸本このみ、24歳」
ナオ 「お仕事は？」
亮介 「会社員」
ナオ 「交際期間はどのくらいですか？」
亮介 「半年かな」
ナオ 「……同棲は？」
亮介 「してないです。ただ、週3ぐらいで来て、俺の家のこと色々やってますね」
ナオ 「自発的な家事貢献度が高いということですね」
亮介 「いや、勝手に作り置きとか掃除って、**ほぼ侵略ですよ**」
ナオ 「半年で……愛着形成が早い方なんですね」
亮介 「愛着？ なに？」
ナオ 「続けますね。喧嘩はありましたか」
亮介 「喧嘩は、だいたい向こうが謝ってくるので」
ナオ 「では、掲載イメージ作成にあたって、スタイルや服の系統を教えてくださいませんか？」
亮介 「写真？」
ナオ 「AI生成です。ご本人の許可なく載せられませんので」
亮介 「細身で胸はまあ大きいほうかな。服はよく分からないっすけど、カジュアルな感じ」
ナオ 「こんな感じでいかがでしょうか」
と、パソコンで作成したプロフィールを見せる。
亮介 【今カノいかがですか？】タイトルの下に情報が書かれ、最後に真剣交際向きと追加されている。
亮介 「なんか、凄い良さげ……」

ナオ 「では、これでテスト掲載いたしますね」
亮介 「どんな風になるんですか？」

ナオ 「まずは、興味アリのいいねが付きます」

音が連続で鳴る。

ナオ 「早速、つきましたね」

亮介 「えっ、もう?」

ナオ 「状態が良いので」

亮介 「状態……」

音が鳴りやまなくなる。

亮介 「すごいっすね」

いいね数が100を超える。

ナオ 「あっ、コメントで即決希望もきてます。村瀬様、これならキャッシュバック確定ですよ」

亮介 「……」

ナオ 「どうされますか? このまま本掲載されますか?」

亮介 「どんな人からコメント来てるんですか?」

ナオ 「それは個人情報なので……とても条件がいい方ですよ」

ナオ、満面の笑み。

亮介、通知音が鳴る度に顔が強張る。

亮介 「あの……やっぱり、やめます」

ナオ 「あっ、そうですか。まあ、好物件ですので。お手元に置いておきたくなったお気持ちも分かります」

と、パソコンを閉じる。

真顔で、

ナオ 「では、登録料3万円お支払いをお願いします」

亮介 「そんなの聞いてませんけど」

ナオ、亮介がサインした書類をトントンと叩いて、

ナオ 「こちらに記載がございます」

亮介 「は? さっき、体験登録って」

ナオ 「はい。出品登録の契約書です」

亮介、言い返せない。

ナオ 「本掲載に移行してマッチングすれば、ここです止めるのと、1万円しか変わりませんが、どうされますか?」

亮介、財布を見つめる。

ナオ 「キャッシュレス決済も可能ですよ」

亮介 「あの、今マッチすれば、3万円とかって……」

ナオ、慣れた手つきで、別の書類を取り出す。

ナオ 「こちらの契約書にサインして頂ければ、可能です」

亮介 「出来るんですね？」

ナオ 「キャッシュバックを希望されない方もいらっしゃいますので」

亮介、サインをする。

ナオ、亮介のサインと同時に本掲載をクリックする。

ナオ 「購入希望者3名ですね。では、岸本このみ様へ同意確認を送信いたします」

亮介 「同意？」

ナオ 「はい。村瀬様の所有物ではありませんので」

亮介 「そんなことしたら、修羅場になるだろ」

ナオ 「ご安心ください。こちらで関係終了の意思確認、感情整理、候補者様との接触まで一括で行います」

亮介 「いや、まだ決めてない」

ナオ、別の端末を操作し、亮介に提示。

(画面) 岸本このみ。現在地：駅前付近

第1候補者 到着予定：5分

調整スタッフ待機中

亮介 「え、もう誰か行ってるの？」

ナオ 「はい。自然接触班が待機しております」

亮介 「自然接触班？」

ナオ 「偶然を整える部署です」

亮介 「いや、だからまだ決めてな——」

ナオ、遮って、

ナオ 「別れ話で最も揉めるのは、空白が生まれる時です。ですので、終了と次の選択肢を同時に提示します」

亮介 「……」

ナオ 「本掲載に移行されますか？」

亮介、財布を見つめる。

ナオ 「キャンセルされますとペナルティもつきますが」

亮介 「また」

ナオ 「違約金——」
亮介、遮って、
亮介 「もういいよ、分かったよ。やれよ」
ナオ、送信ボタンを押す。

4. 駅前（昼）

人込みの中、立ち止まってスマホを確認するこのみ。
（スマホ画面）出品者：村瀬亮介
マッチング申請が届いております。
関係終了及び、候補者との接触に同意をお願いいたします。

5. 関係整理相談所・室内（昼）

亮介のスマホにこのみからの着信。
亮介、固まる。
ナオ 「お出になってください」
亮介 「いや、無理ですって」
ナオ 「代行いたしますので」
ナオ、亮介からスマホを受け取り、
ナオ 「はじめまして。岸本このみ様ですね。関係整理相談所の
臼井ナオと申します」
このみの声 「……関係整理？」
ナオ 「村瀬亮介様より、現在の交際関係を終了したいとのご依頼を受けております」
このみの声 「亮ちゃんは？」
ナオ 「同席しております」
このみの声 「じゃあ、本人と話させて下さい」
ナオ、亮介を見る。
亮介、力なく座っているだけ。
ナオ 「申し訳ありません。直接の会話はご本人の精神的負担が
大きいため、こちらで代行しております」
このみの声 「あなた、新しい女とかじゃないの？」
ナオ 「いえ、そうだったことは絶対にありません」
このみの声 「……亮ちゃん、本当に別れたいんですか」

ナオ 「はい」

このみの声 「本人は言えないんですね」

ナオ 「そのようです」

少しの間。

このみの声 「次候補者ってなんですか」

ナオ 「このみ様との真剣交際を希望されている方です。現在、

近くで待機しております」

このみ、答えない。

ナオ 「拒否も可能です」

このみの声 「……亮ちゃんと話せないんですよね？」

ナオ、亮介を一瞥して、

ナオ 「はい」

このみの声 「じゃあ、会います」

亮介、ナオを見ている。

このみの声 「自分で終わらせませす」

ナオ 「同意を確認いたしました」

ナオ、電話を切る。

亮介にスマホを返す。

このみからのメッセージが届く。

(スマホ画面) 今までありがとう。亮ちゃんと幸せ
になりたかったな。冷蔵庫に作り置きハンバーグ
入ってるから。体に気を付けてね。

亮介 「やっぱり、やっぱり、やめてもいいですか。違約金いくらでも払います」

ナオ 「申し訳ありませんが、このみ様が同意され、購入者様とのセッティングも進んでおりますので」

亮介 「キャンセルはもう無理？」

ナオ 「はい……」

亮介、うなだれる。

ナオ、パンフレットを取り出し、

ナオ 「うちは月額1万円から復縁支援も承れますので」と、満面の笑みを向ける。

(おわり)